# 神戸市感染症発生動向調査週報

平成29年1月18日 作成

神戸市感染症情報センター

報告定点数 48 ケ所 (内訳)東灘6,灘3,中央3,兵庫3,

第2週 2017年 1月 9日 ~

2017年 1月 15日

1	ン	J	J	レ	ㅗ	ン	ァ	
								-

置定点数 48 5	r所 <sup>扎</sup>	28,長田3,須磨6,垂水8,西8
-----------	-----------------	-------------------

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~	
インフルエンザ	50	37	33	24	46	43	81	115	101	530	1	5	20	30	25	22	28	20	22	23	12	53	45	55	44	43	24	32	20	6	

報告定点数 31 ケ所 (内訳)東灘4,灘2,中央2,兵庫2,

/	k	ほぎ
,		Л. Т

設置兌	≧点数	31	ヶ所	
	1	п.	n 3	

`	<b>→</b>	· ,/大L *	-,	ノ <b>、</b> と,	<b>/</b>	,	
	北5	長田:	2.須	糜4.	垂フ	k5.	西5

<u></u>			ひ 旦人	<u>ヒポ数</u>	<u> </u>	<u> </u>		700,10	ш 2, уд ла	1, 主7,0,口0														
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~
RSウイルス感染症			1		1		4	3	2	11	2	1	3	2	2	1								
咽頭結膜熱	1	1	2			1	4	2		11			5				2	2		1		1		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1	2	2	1	2		5	5	24	42			3	3	2	6	2	4	4	2	4	4		8
感染性胃腸炎	17	16	6	4	16	12	9	37	21	138	1	5	9	11	7	12	15	14	7	9	4	22	3	19
水痘		1	1	2	6	2	2	2	3	19			3	2		1	2	4	1	2	1	2	1	
手足口病	3		1		1					5		1			1		1	1			1			
伝染性紅斑	1	2								3			1			1	1							
突発性発疹		1	1				3	2	4	11		8	3											
百日咳					1					1		1												
ヘルパンギーナ																								
流行性耳下腺炎	12	3	2	2	9	1	3	3	13	48		1	1	3	5	2	3	6	5	4	4	12		2

インフルエンザの定点あたり患者 |数は今週11.0人(先週5.6人)と |増加し、注意報水準である10人以 上となりました。直近5週間に報 告された患者1,829人の年齢分布 は、5-9歳23%、10-14歳20%、4 歳以下15%の順で、15歳未満が全 |体の58%を占めています。60歳以 上は8%です。今シーズンの遺伝 |子検査では、市内の患者から AH3N2亜型(A香港型)13件、 A(H1N1)pdm09 1件、B型(山形系 |統) 1件のインフルエンザウイル スを検出しています。 ※注意報が発令されたことに伴 い、1月23日 (月) から登録医療 |機関を対象として「ILI情報セン ター」ホームページに入院病床の 空床情報掲載を始めます。ご活用 ください。

報告定点数 10 ヶ所

(内訳)東灘1,灘1,中央1,兵庫1,

眼科

設置定点数 10 ヶ所

北1.長田1.須磨1.垂水1.西2

				<u> </u>		7 171																							
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~
急性出血性結膜炎																													
流行性角結膜炎			1	1						2														1		1			

(定点機関から報告されたその他の感染症情報)

東灘区〇マイコプラズマ肺炎1例:0~4歳男(6101)

- 灘 区〇マイコプラズマ感染症2例:5~9歳女、10代女(6202)
- 区〇病原性大腸菌(025)感染症1例:0~4歳女(6505)
- 区〇カンピロバクター腸炎1例:20代男(6901)
- 区〇アデノウイルス感染症1例:年齢・性別不明(6903)

(インフルエンザ定点機関から報告された迅速キット陽性情報)

A 型	B 型
453	4

〔お知らせ〕バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。

神戸市 発生動向〔検索〕

「ILI情報センター」ホームページを開設しました!詳細はこちらをクリック

【結核に関する情報】 今週の結核届出患者数は6人(うち潜在性結核感染症3人)です。

## 【市内の感染症の状況】

国内初の女性のエイズ患者が神戸市で確認され、「神戸パニック」が起きてから 30年が経ちました。今でも知識の不足により、HIV感染者やエイズ患者への 偏見や差別につながることが多いです。エイズや梅毒などの性感染症は誰でも 感染する病気であるという認識をもち、感染予防に努めることが大切です。

### 【感染症発生動向調査事業実施要綱】

http://www.city.kobe.lg.jp/life/health/infection/trend/img/youkou110729.pdf

※病原体サーベイランスとは、流行する感染症の病原体を詳しく調べて、その特徴や流行状況を監視する システムです。解析結果は、「神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況」をご覧ください。

全数把握対象感染症発生状況 (四類感染症 レジオネラ症 )

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	70代	2017年1月6日	2017年1月6日	2017年1月6日	肺炎型	尿中の病原体抗原の検出 (イムノクロマト法)	発熱・肺炎 血痰	不明	

#### 全数把握对象感染症発生状況 (五類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 )

I	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
Ī	女	90代	2017年1月7日	2017年1月9日	2017年1月10日	/	血液培養法	発熱・咳 全身倦怠感 菌血症	不明	ワクチン接種歴無し

#### 全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 アメーバ赤痢)

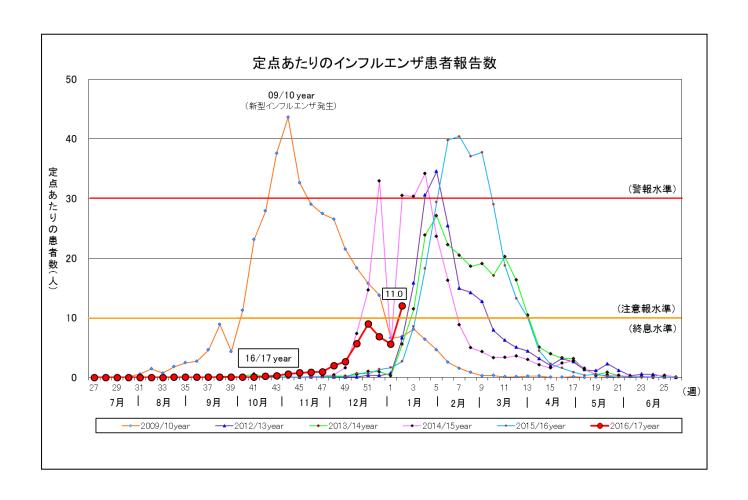
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	40代	2016/12月1日頃	2016年12月15日	2017年1月10日	腸管アメーバ症	鏡検による病原体の検出 (大腸粘膜組織)	粘血便 しぶり腹	異性間性的接触	

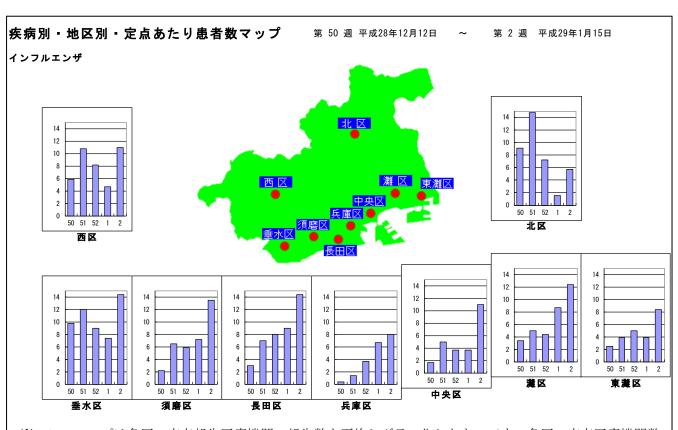
#### 全数把握对象感染症発生状況 (五類感染症 梅毒)

	マルントルンし	W 11V -							
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	60代	2016年12月20日	2017年1月4日	2017年1月7日	早期顕症梅毒I期	RPRカードテスト TPHA法	硬性下疳	異性間性的接触	
男	20代	2016年12月25日	2016年12月29日	2017年1月7日	早期顕症梅毒I期	RPRカードテスト TPHA法	初期硬結	異性間性的接触	
男	30代	2016年12月頃	2017年1月10日	2017年1月11日	早期顕症梅毒Ⅰ期	RPRカードテスト TPHA法	初期硬結	異性間性的接触	

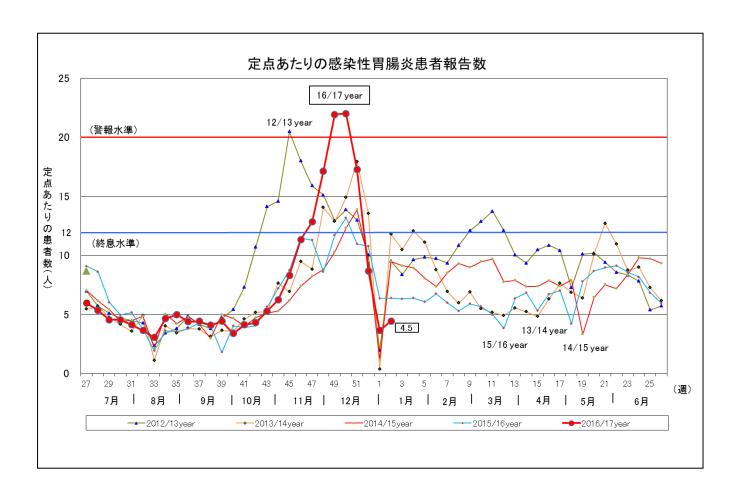
## 神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

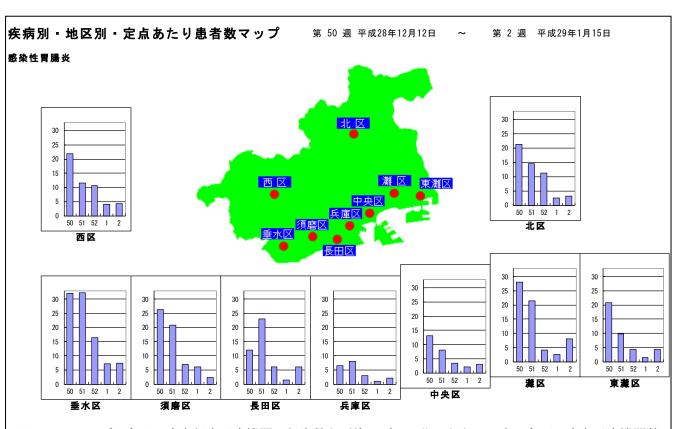
病原体	検体 区		状況		
	唾液	東灘	7歳女児(1/5採取、唾液腺の腫脹)		
ムンプスウイルス	咽頭ぬぐい液	中央	7歳9ヶ月男児(1/6採取、唾液腺の腫脹、37.6℃)		
	咽頭ぬぐい液	中央	11歳2ヶ月男児(1/10採取、唾液腺の腫脹)		



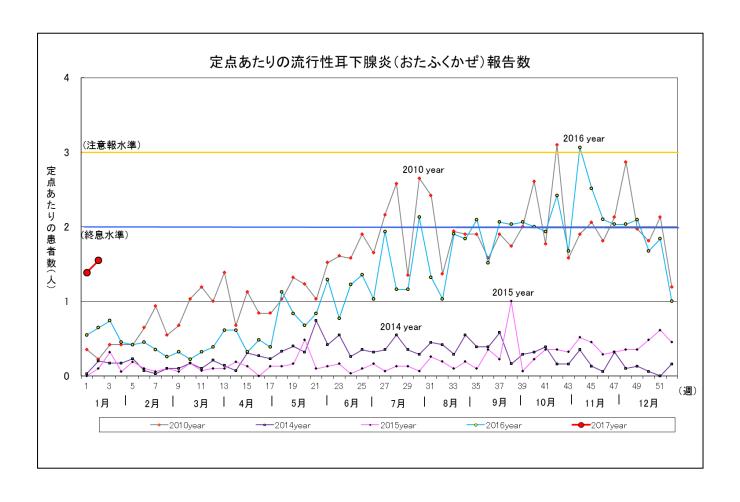


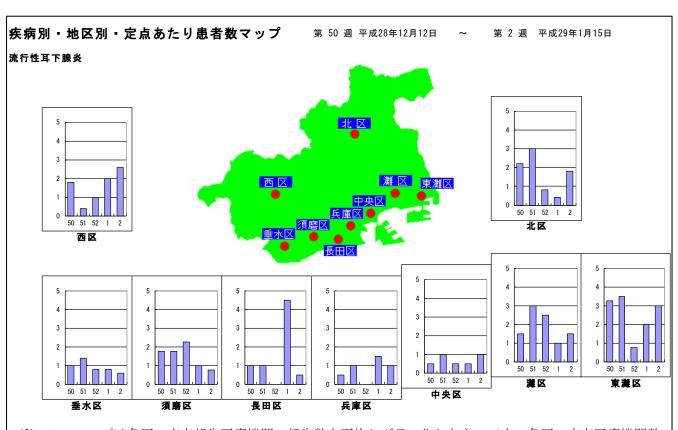
※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。





※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。





※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。